

**令和元年度**  
**東北食料・農業・農村を巡る情勢**  
**(事例編)**

令和2年12月

農林水産省  
東北農政局



# 令和元年度 東北食料・農業・農村を巡る情勢（事例編） < 目次 >

## 第1章 自然災害及び東日本大震災からの復旧・復興に向けた取組等

### （東日本大震災からの復旧・復興に関する事例）

#### ①水田等基盤整備

復旧・復興のシンボルから高齢化が進む地域と農地を守る砦として	農事組合法人広田半島及び広田半島営農組合	岩手県	… 3
乾田直播による農作業効率化とコスト削減の取組	農事組合法人仙台中央アグリサービス	宮城県	… 4
避難解除地域でのたまねぎ産地化による営農再開	浪江町タマネギ生産組合	福島県	… 5

#### ②施設園芸

岩手三陸沿岸の地域活性化の契機として夏いちごに挑む	株式会社リアスターファーム	岩手県	… 6
最先端の栽培管理による高品質で安定したいちご作りを実現	株式会社GRA	宮城県	… 7
献上桃と地産食材を活かしたイタリアンレストランによる地域と食の復興	一般財団法人 桑折町振興公社	福島県	… 8

#### ③畜産

地域とともに、復興の未来を牽引するブランド鶏生産の取組	株式会社オヤマ	岩手県	… 9
経営の集約と6次化商品でより一層の事業展開へ	株式会社花兄園ファーム	宮城県	… 10

自社育成牧場で経費削減と疾病リスクを回避

株式会社フェリスラテ

福島県

… 11

## 第2章 食料の安定供給の確保に向けた取組

### ①新たな国内ニーズへの対応

夏季冷涼な気候を活かした青森県下北地域の「夏秋いちご」の取組

下北夏秋いちご出荷組合

青森県

… 15

機械化一貫体系による大規模な業務用ねぎ栽培

株式会社おがフロンティアファーム

秋田県

… 16

### ②農林水産物・食品の輸出

輸出拡大による販路開拓で産地競争力を強化

ごしょつがる農業協同組合

青森県

… 17

福島産ものの美味しさと安全性をアピールし輸出を回復

福島県、JA 全農福島、JA ふくしま未来

福島県

… 18

### ③G I 活用による地域産品のブランド保護

山形セルリーのブランド確立による付加価値の向上

JA 山形市

山形県

… 19

技術の伝承と巧みな販売戦略で安定的な販売

二子さといも協議会

岩手県

… 20

### ④6次産業化の推進

樹上完熟させたいちじくでこだわりの逸品をつくりあげる

やまうち農園株式会社

宮城県

… 21

こだわりの「眠れる森のたまご」を使った商品開発等による所得向上

有限会社蔵王鶏園

宮城県

… 22

## 第3章 強い農業の創造に向けた取組

### ①人材の確保・育成

宿根かすみそうで地域農業を守る

昭和村新規農業参入推進協議会

福島県

… 25

地域で育てた新規就農者が地域農業の担い手に

地域定住農業者育成コンソーシアム

山形県

… 26



## ②水田活用

大規模ブロックローテーションで高い大豆単収を実現	農事組合法人強首ファーム	秋田県	… 27
ブロックローテーションと排水対策による高品質・高単収の大豆栽培	農事組合法人遠野こがらせ農産	岩手県	… 28

## 第4章 地域資源を活かした農村の振興・活性化に向けた取組

### ①農山漁村の活性化

『活気ある、ずっと住みたい町』を目指し、ICTを使って子どもからお年寄りの暮らしを支援	西会津地域活性化協議会	福島県	… 31
インバウンドの経済効果を農泊の取組を通じて地域に波及させる	八幡平ファームステイ協議会	岩手県	… 32

### ②農福連携

大豆生産と豆腐製造を通じた自立支援	社会福祉法人岩手更正会	岩手県	… 33
高い品質の肉用牛を飼育することで黒字化を達成	社会福祉法人月山福祉会	山形県	… 34

### ③棚田地域の活動

ワークショップ（WS）による話し合いを基にできることから実践	榎平棚田保全活動推進委員会	山形県	… 35
交流イベント等をとおして、関係人口の創出、観光資源として活用	四ヶ村の棚田地域振興協議会	山形県	… 36



## 第1章

# 自然災害及び東日本大震災からの復旧・復興に向けた取組等 (東日本大震災からの復旧・復興に関する事例)



## 復旧・復興のシンボルから高齢化が進む地域と農地を守る砦として

のうじくみあいほうじんひろたはんとう ひろたはんとうえいのうくみあい いわてけん りくぜんたかたし  
**農事組合法人広田半島及び広田半島営農組合**〔岩手県陸前高田市〕

### 【工夫のポイント】

- 被災後いち早く、浸水した水田1haで水稻の作付を再開。
- 営農組合女性部が、加工部門として立ち上げた工房「めぐ海（み）」を被災した翌年には再開。営農組合で生産された農産物と地元の海産物を使った「おやき」や「みそ」等を製造・販売することで、6次産業化を図る。
- ほ場整備の工区ごとに工区長を配置し、水稻栽培の作業分担を明確にすることで、ほ場の適切な管理を可能に。
- スマート農業の一環として、スマートフォンを活用した水センサーを試験導入。



トラクターによる耕起



田植え



収量計測可能なコンバイン

### 【経営の概要】

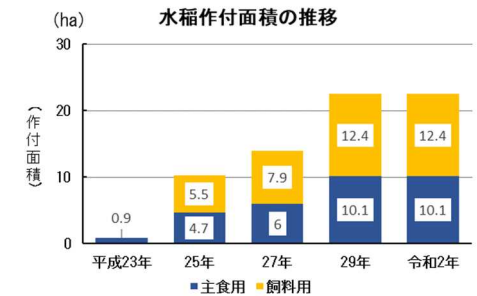
- 設立 平成21年度 広田半島営農組合  
平成26年度 農事組合法人広田半島
- 構成人数 96名（令和2年度）
- 作付面積 23.5ha（令和2年度）
- 主な栽培品目 米（主食用・飼料用）、大豆、かぼちゃ
- 主な水稻栽培品種（主食用）ひとめぼれ、たかたのゆめ  
（飼料用）つぶゆたか

#### ○取組のきっかけ

広田地区のほ場整備の計画が立ち上がり、地域と農地を守るための話合いが重ねられ、整備事業が実施された平成21年に「広田半島営農組合」を設置し、整備された農地の活用の取組を開始。

### 【取組と成果】

- 被災直後に、被災水田で作付再開を実現したことで、復旧・復興のシンボルとなる。
- 被災の翌年、工房「めぐ海（み）」が再開を果たし、加工品販売等を通じて陸前高田市の復興に貢献。
- ほ場整備の進捗に併せて経営面積を拡大し、平成29年のほ場整備終了時点では、23.5haまで規模拡大。
- 平成27年からは「農事組合法人広田半島」が生産部門を、「広田半島営農組合」が農産物の加工・販売部門を担い、一体的に活動を実施することで法人化を実現。
- 高齢化が進み、どのようにして現在の経営面積を維持していくのが喫緊の課題となる中、担い手として定年後の人達に期待しつつ、地域と農地を守る砦として営農組織を継続。



### 【取組地域の概要】

- 岩手県陸前高田市
- 主要作物（農業産出額）  
米 (3.1億円)  
果実 (2.6億円)  
野菜 (2.1億円)

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



## 乾田直播による農作業効率化とコスト削減の取組

のうじくみあいほうじん せんだいちゅうおう

みやぎけん せんだいし

### 農事組合法人仙台中央アグリサービス〔宮城県仙台市〕

#### 【工夫のポイント】

- 水稲栽培のコスト削減、農作業の省力化を目指して始めた乾田直播を被災後、本格的に取り組む。
- 作業日程はスマートフォンのアプリを活用した連絡とすることにより効率的に作業を分担。
- ほ場整備事業より大型機械での作業が可能となる等、必要最小限の人数と時間での作業が可能。
- GPSトラクターやドローンによる農薬散布など、新しい技術を取り入れ、さらなる農作業の省力化に取り組む。
- 組合の売上げは、作業内容や機械の提供などをポイント化し、従事分量に応じて各農家に配当。



乾田直播のほ場



乾田直播作業



乾燥機

#### 【取組と成果】

- 乾田直播により、代かき、育苗作業がなくなることから労働時間及びコストの削減につながる他、地域から委託された育苗作業との分散が可能となったことで規模を拡大。
- 栽培面積及び収量は年々増加。
- 区画の大規模化、農道の整備により、耕耘作業や畦畔の草刈り作業の時間を短縮。また、給水栓の整備により水管理作業はもとより、肥料・農薬を用水の流れに乗せてほ場全体に流し込む方法により、肥培管理、防除作業の負担が大幅に削減。
- 大型機械や新技術の導入等により、地域の若者達が農業に興味を示すようになった。



#### 【経営の概要】

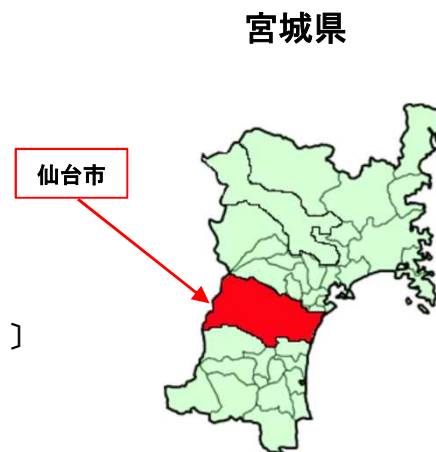
- 設立 平成20年1月
- 代表者 代表理事 堀江 文之 氏
- 構成 専業農家11戸(11名)(令和2年9月現在)
- 栽培品目 水稲(主食用米30ha(うち乾田直播300a))  
大麦→大豆の二毛作(23ha)、大豆の単作(8ha)
- 取組のきっかけ  
集落内の10戸の農家で組織していた大麦、大豆転作用機械利用組合を平成20年に法人化。東日本大震災で被災した乾燥調製施設の復旧を契機に1戸を加えた11戸の農家で大麦、大豆に加え新たに水稲栽培を開始。3年4作(米・米・麦・大豆)のブロックローテーションにて効率的な生産を実施。

#### 【取組地域の概要】

##### ●宮城県仙台市

- 主要作物等(農業産出額)  
米 (35.3億円)  
野菜 (24.3億円)

〔平成30年市町村別農業産出額(推計)〕





## 避難解除地域でのたまねぎ産地化による営農再開

なみえまち せいさんくみあい ふくしまけん なみえまち  
浪江町タマネギ生産組合〔福島県浪江町〕

### 【工夫のポイント】

- 高齢で通い農業者が多い浪江町において、スマートフォンを活用した圃場気温が確認できるシステムの導入と機械の共同利用による栽培体系の構築で、大規模省力化生産が可能。
- さらに中型選別機、強制抜気型乾燥機を導入した集出荷体系の整備で、生産～出荷までの一貫した作業の効率化、省力化が図られ、規模拡大に繋がる。
- 福島県主催による栽培指導会及び隣接地域との交流会を定期的で開催し、栽培技術の向上と統一化を図る。
- 販売単価の高い大玉を生産し収益向上を図る。



全自動乗用移植機



大型ハーベスター



中型選別機

### 【経営の概要】

- 設立 平成31年3月
- 代表者 松本 善郎 氏
- 構成人数 10名
- 作付面積 5.26ha (令和2年度)
- 主な栽培品目 たまねぎ (秋植え、春植え セット栽培)
- 主な栽培品種 浜の輝、ターザン
- 取組のきっかけ

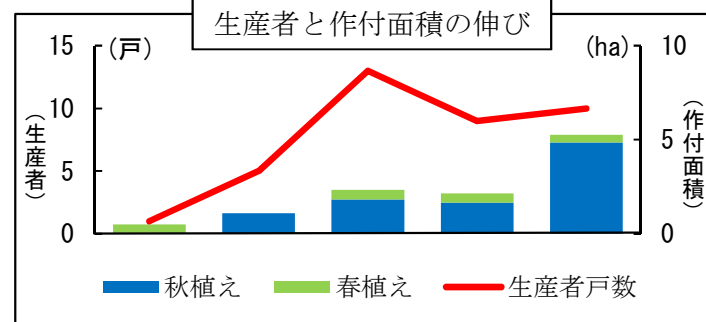
東日本大震災後の営農再開において、県内でほとんど産地化されていなかった「たまねぎ」に着目し、全国生産量上位産地の収穫時期の合間をねらった6月～8月に収穫することにより生産安定を図る。

### 【取組と成果】

- 意識の変化  
たまねぎ販売が好評だったことが高齢者でも安心して通い農業ができるという自信に繋がり意識の変化が生まれ、周辺地域への良い影響となり、営農再開を望む高齢者の帰還のステップとなった。
- 生産者と作付面積の増加  
平成28年の生産の開始時は1戸50aだったが、令和2年度は10戸5.26haまで拡大。
- ブランド化  
福島県オリジナル品種「浜の輝」を開発しブランド化を図るとともに復興をPR。道の駅の産直コーナーで販売し高評を得る。



オリジナル品種のPR



### 【取組地域の概要】

- 福島県双葉郡浪江町
- 主要作物 (農業産出額)  
米 (0.1億円) H30年
- ※H29.3.31 作付け解除

〔平成30年市町村別農業産出額 (推計)〕



## 岩手三陸沿岸の地域活性化の契機として夏いちごに挑む

かぶしきがいしゃ  
株式会社リアスターファーム いわてけんりくぜんたかたし〔岩手県陸前高田市〕

### 【工夫のポイント】

- 地域の気候に合わせて夏秋どりいちごを栽培  
夏が冷涼で冬の日照を確保できる東北太平洋沿岸の気候にあった夏秋どりいちごを生産することで、いちごの出回り量が少ない夏に有利販売。
- 同一株2年栽培  
定植後同一株で2年間収穫する（2年8季どり）の方法でいちごを栽培することにより、育苗作業時間と育苗経費を半減。また、隔年定植で栽培することで、収穫閑散期をなくし通年販売が可能。



大船渡地区のハウス



木骨ハウス



環境制御システム

### 【取組と成果】

- 大船渡市のモデル事業を利用し規模拡大  
大船渡市が実施している、地方創生推進事業「夏いちごの産地化プロジェクト」のモデル事業に参画し、規模拡大を図る。
- 木骨ハウスで地域林業の活性化に寄与  
陸前高田市及び大船渡市のハウスには、建築が容易で丈夫、安価な木骨ハウスを採用。地元で調達した木材を使用することで、地域林業の活性化に寄与。
- 販路の開拓  
品質の良いいちごを生産することで、県内の洋菓子店が夏秋時に利用する外国産いちごを同社のいちごに置き換えた。
- 研修生の受入れ  
研修生は、現在1名であるが、さらに研修生を受け入れて栽培ノウハウや経営モデルを地域に広める予定。

### 【経営の概要】

- 設立 平成31年2月
- 代表者 太田 祐樹 氏
- 構成人数（令和2年10月現在）  
社員3名、パート3名、研修生1名
- 主な栽培品目及び面積（令和2年10月現在）  
本社 陸前高田市 イチゴ、600坪 1980m<sup>2</sup>  
研修施設 大船渡市 イチゴ、570坪 1880m<sup>2</sup>
- 栽培品種  
「夏の輝」「なつあかり」「信大BS8-9」
- 取組のきっかけ  
岩手県が実施した「中山間地域における施設園芸技術の実証研究」に研究員として携わり、研究終了後、陸前高田市にある研究施設を借用し就農。

### 【取組地域の概要】

- 岩手県陸前高田市
    - 主要作物（農業産出額）  
米（3.1億円）  
果実（2.6億円）  
野菜（2.1億円）
  - 岩手県大船渡市
    - 主要作物（農業産出額）  
鶏（32.3億円）  
米（1.2億円）  
野菜（0.7億円）
- [平成30年市町村別農業産出額（推計）]

岩手県





## 最先端の栽培管理による高品質で安定したいちご作りを実現

かぶしががいしゃ

みやぎけん やまもとちょう

株式会社GRA [宮城県山元町]

### 【工夫のポイント】

- ベテランのいちご農家の経験と知識をITで数値化し、ノウハウを共有することによって栽培技術の底上げ、熟練技術を伝達。
- データをもとに温度、湿度、日照量、二酸化炭素濃度、栄養分を定量的に管理する自動環境制御装置等を導入し、コンピューターによる一括管理で安定的な生産が可能。
- 高設ベンチを使用した栽培方法を採用することにより、栽培管理や収穫を容易に実施。
- 持続的な農業を実践するための生産工程管理に関する国際基準であるGLOBALG. A. P (グローバルギャップ)の認証を取得。



ICHIGO WORLD



先端園芸ハウス



高設ベンチ

### 【経営の概要】

- 設立 平成24年1月
- 代表者 岩佐 大輝 氏
- 雇用人数 85名 (正社員25名、パート60名)
- 圃場面積 2.6ha
- 主な栽培品目 いちご (高設培養栽培)
- 主な栽培品種 とちおとめ、もういっこ、はなみがき
- 取組のきっかけ

東日本大震災のボランティア活動時に「地方に雇用を」との強い声を受け、東北有数のいちご産地であった故郷山元町の復興を目的にGRAを設立。ベテランのいちご農家の経験とITを融合させた栽培方法により自社ブランドいちごを生産・販売。

### 【取組と成果】

- 2013年グッドデザイン賞を受賞。「食べる宝石」をコンセプトに、栽培法・選果基準による果実の違いをブランド化した「ミガキイチゴ」として、付加価値をつけて販売店を限定することにより、差別化を図る。
- 海外へのいちご輸出や6次産業化により開発したワインや化粧品等をオンライン販売することにより販売額が増加。
- 新規就農支援事業による研修終了後、山元町に就農した生産者に対し包括的な営農サービスとして営農地選定や独立時のハウス建設支援、生産したいちごの販売までサポートすることによって担い手を育成、Iターン、Uターン求職者の雇用機会を創出。



ミガキイチゴ



### 【取組地域の概要】

- 宮城県亘理郡山元町
- 主要作物 (農業産出額)
  - 野菜 (15.6億円)
  - ・いちご (13.4億円)
  - 米 (8.9億円)
  - 果実 (1.2億円)

[平成30年市町村別農業産出額 (推計)]

宮城県



## 献上桃と地産食材を活かしたイタリアンレストランによる地域と食の復興

いっばんざいだんほうじん こおりまちしんこうこうしゃ ふくしまけんこおりまち  
 一般財団法人 桑折町振興公社 [福島県桑折町]

### 【工夫のポイント】

- 「献上桃の郷」平成28年2月に商標登録  
 原発事故による風評の払拭のため桃のブランド化に取り組む。皇室へ献上する桃として平成6年から連続して選出されている実績により「献上桃の郷」というキャッチフレーズを商標登録。
- 有名イタリアンシェフの全面プロデュースにより、町で運営していたレストランを令和2年5月にリニューアルオープン。町の食材を活用した本格的なメニューを提供。
- 町の農産物・加工品の市場（伊達崎マルシェ）を定期開催（6月～11月）し、生産者と消費者の交流を図る。



献上桃選果式の様子



桑折の食材を活かした本格石窯ピザとパスタ



伊達崎マルシェ

### 【取組と成果】

- 町産桃の知名度の向上とブランド化を図るため「献上桃の郷」シリーズとして献上桃と同品種の「あかつき」を加工した6次化商品を開発し、販売を開始。オンラインショップ等での販売のほか、期間限定で東京都区内123局、仙台市内10局の郵便局で委託販売したグミは、販売開始3日で2,400個を売り上げるなど、そのおいしさで大好評。
- 有名シェフのレシピによる本格的なイタリアンレストラン及び農産物を扱うマルシェには、首都圏も含め県内外から集客があり、地域の活性化につながると共に「食の町」としての桑折町の知名度・発信力の向上に貢献。

※6次化商品の売上実績（令和元年度）

- ・至福の桃ソルベ 17,749個
- ・至福の桃グミ 190,855個
- ・至福の桃飲むこんにゃくゼリー 4,269個（3月販売）



6次化商品  
 （ソルベ、グミ、こんにゃくゼリー）

### 【経営の概要】

- 設立  
 平成7年3月31日
- 代表者  
 代表理事 理事長 渡邊 美昭 氏
- 組織体制  
 事務局長以下12名（総務・地域振興部門2名 農業振興活動拠点部門10名）
- 取組内容
  - ・桑折町の認知向上等PR活動
  - ・6次化商品企画開発事業
  - ・農業振興活動拠点施設管理運営事業



桑折町農業振興活動拠点施設  
 レガーレ桑折

### 【取組地域の概要】

- 福島県伊達郡桑折町
- 主要作物（農業産出額）  
 果樹、水稻  
 果実（18.1億円）  
 米（4.1億円）

[平成30年市町村別農業産出額（推計）]





地域とともに、復興の未来を牽引するブランド鶏生産の取組

かぶしがいしゃ いわてけん いちのせきし  
株式会社オヤマ〔岩手県一関市〕

【工夫のポイント】

- 種鶏・若どりの生産から鶏肉の製品・加工・販売までの一貫した生産体制のもと6次産業化に取り組む。
- 安全な畜産物を生産するために「農場HACCP認証（第214・215号）」を取得。
- 独自に開発した鶏糞リサイクルも兼ねた「鶏糞ボイラー」によるフロアヒーティングを導入。
- 「鶏糞ボイラー」で燃烧させた灰をリン酸カリ肥料（岩手県再生資源利用認定製品（認定番号第29-1号））として製造、販売。
- 消費者とふれあうイベントとして、年に一度「感謝祭」を開催し、地域との交流を深める。
- 直営の保育園を会社敷地内に設置。従業員の子育て支援の枠を超えて、地域の子どもたちを受け入れ、子どもたちに食べさせたい食品を作っていることを啓発。



株式会社オヤマ 本社



種鶏



感謝祭

【経営の概要】

- 設立 昭和44年7月
- 代表者 代表取締役 小山 征男 氏
- 従業員数 600名（男女比 5：5）（令和2年）
- 銘柄鶏 「いわいどり」「地養鳥」
- 生産量（月間） 100万羽
- 取組のきっかけ  
東日本大震災により福島県飯舘村の養鶏場が操業停止したことで、代替りの養鶏場を本社がある岩手県一関市に設置し、従業員の継続雇用を確保。

【取組と成果】

- 一貫した生産体制により、品質管理と衛生管理の徹底を図り、一般家庭をはじめ、ホテルや外食産業から高い評価。
- 鶏糞をボイラーの燃料や肥料にリサイクルすることで、地域環境に配慮した仕組みを構築。
- 「鶏糞ボイラー」によるフロアヒーティングの導入により、雛が病気になりやすく、健康に育つ環境を実現。
- 直営のからあげ専門店が「からあげフェスティバルNo.1決定戦」で初代優勝。日本一になったことで、知名度が向上。



本社工場内 加工工程



からあげフェスティバル



直営店 からあげ家

【取組地域の概要】

岩手県

●岩手県一関市

- 主要作物（農業産出額）
- 畜産（199.9億円）
  - ・鶏（66.6億円）
  - ・豚（59.6億円）
  - ・肉用牛（50.9億円）
  - ・乳用牛（22.4億円）
- 米（66.5億円）
- 野菜（24.6億円）



一関市

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

## 経営の集約と6次化商品でより一層の事業展開へ

かぶしきがいしゃかけいえん  
株式会社花兄園ファーム [宮城県大崎市]

### 【工夫のポイント】

- セミウィンドレス鶏舎7棟及び選別包装施設を新設し、防疫対策、鶏の飼育環境に配慮した生産体制にすることにより生産性を向上。
- 自家育雛、育成により強健で良質な雛を生産。
- 採卵期間の無投薬(法定ワクチンを除く)、PHF(収穫後農薬不使用)及びNON-GMO(遺伝子組み換えでない)トウモロコシや大豆粕を主原料に飼料用米を混合した飼料によるこだわりの生産方法。
- 選別包装施設で使用する洗卵水を電解水にし、薬品を使用しない洗卵を行うことにより環境負荷軽減への取組を実施。
- 酵素利用による中温での鶏ふん発酵処理を行って臭気対策。



鶏舎遠景



鶏舎



6次化商品  
(プリン)

### 【取組と成果】

- ごたわりの生産方法により鶏を飼育することで薬物残留や耐性菌の心配がない安全で良質な卵を生産し、花兄園の「花たまご」のブランド名で生協を中心に販売。
- 系列会社においてプリンやマヨネーズ等の加工品を製造・販売し高付加価値を図る。特に、プリンは原料にこだわった自社工場での手作りから素材を活かした味わいが人気。
- 安心して働き続けられる職場環境を整備する等により従業員の女性割合が7割と高く、地域雇用の創出に貢献。また、外国人実習生を受け入れ人材育成にも取り組む。
- 農場で生産されるたい肥を地域の耕種農家に供給し、耕畜連携に取り組む。

### 【経営の概要】

- 設立 平成27年12月
- 代表者 代表取締役社長 大須賀 木 氏
- 従業員数 48人(うち常勤:8人、非常勤:40人(うち外国人技能実習生:6名))
- 飼養羽数 29万羽(採卵鶏3農場)(令和2年10月現在)
- 取組のきっかけ  
東日本大震災により宮城県・福島県で営農不能となった3農業法人を再編集約し、新たな法人を設立。大崎市鹿島台に鶏舎及び選別包装施設を新設し、営農を開始。グループの別会社でプリンなどの卵を使用した加工品の製造・販売。

### 【取組地域の概要】

- 宮城県大崎市
- 主要作物等(農業産出額)
 

米	(123.7億円)
肉用牛	(38.7億円)
野菜	(24.2億円)

[平成30年市町村別農業産出額(推計)]





## 自社育成牧場で経費削減と疾病リスクを回避

かぶしがいしゃ ふうしまけんふくしまし いいたてむら  
株式会社フェリスラテ [福島県福島市、飯館村]

### 【工夫のポイント】

- 震災後に福島県の酪農業の早期復興、避難休業者の一日も早い酪農再開への希望を叶えるため、福島市に復興牧場として設立。
- 大規模共同経営方式とし、コスト削減、労働条件の改善等これからの酪農先進モデルを目指した牧場経営。
- 自家育成することにより、育成牛の経費削減と疾病リスクの回避を図り、育成牛の北海道依存から脱却。
- 育成牛の管理マニュアルを作成し、どの社員でも管理できる体制を構築することにより経営を効率化。
- 育成牧場で生産されるたい肥を飯館村の耕種農家に提供する耕畜連携に取り組むことにより、村の営農再開に貢献。



本場全景



育成牧場牛舎



育成牛

### 【経営の概要】

- 設立 平成26年4月
- 代表者 代表取締役社長 田中 一正 氏
- 従業員数 福島市（本場）26名、飯館村（育成牧場）2名
- 飼養頭数 福島市（本場）620頭、飯館村（育成牧場）200頭（令和2年2月現在）

#### ○取組のきっかけ

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、避難を余儀なくされた酪農家5名が福島市に設立。低コストで優良な後継牛を確保するため、令和元年6月から「育成部門」として震災以降使われていなかった飯館村振興公社の牛舎4棟を借受け自家育成に取り組む。今後は酪農にとどまらないさらなる事業展開を目指す。

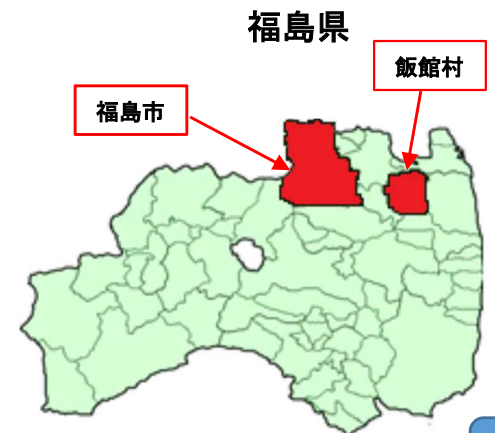
### 【取組と成果】

- “牛にやさしく、人にやさしく”を理念とし、大規模共同経営方式による牧場経営を成功に導き福島県の酪農復興のシンボルとなる。
- 現在は、年間常時搾乳500頭規模、年間生乳生産量約5,000t（日量約15t）で飼養頭数、乳量ともに福島県で1位となっており、東北屈指のメガファームへと成長。
- 繁殖から育成までを自社育成牧場で一貫して行うことにより、低コストで優良な後継牛を計画的に確保。繁殖と育成のサイクルが軌道に乗り、安定的な生乳生産が可能。
- 会社の成長に伴い従業員も着実に増加し、外国人実習生も受け入れ。また、従業員には酪農後継者を受け入れ、その育成に貢献。




### 【取組地域の概要】

- 福島県福島市
  - 主要作物（農業産出額）
    - 果実（101.9億円）
    - 米（20.4億円）
- 福島県相馬郡飯館村
  - 主要作物（農業産出額）
    - 米（0.2億円）
  - ※H29.3.31 一部帰還解除（「帰還困難区域」を除く）
  - [平成30年市町村別農業産出額（推計）]







## 第2章 食料の安定供給の確保に向けた取組





## 夏季冷涼な気候を活かした青森県下北地域の「夏秋いちご」の取組

しもきたかしゅう しゅつかくみあい あおもりけん し ひがしどおりむら  
 下北夏秋いちご出荷組合〔青森県むつ市、東通村〕

### 【工夫ポイント】

- いちごはケーキなどの業務用を始め、季節や用途を問わず人気があるが、6月から11月の夏秋期は国内生産が難しく、例年、ほとんどがアメリカなどからの輸入。
- 鮮度や安全・安心面からも、近年輸入から国産に切り替えて使用する要望が高まる。
- 青森県下北地方は、夏場に冷たい風が吹くやませ地帯であり、農業にとっては厳しい環境となっているが、この夏季冷涼な気候条件をうまく活用し、夏秋いちご栽培に着目。



いちご苗（すずあかね）



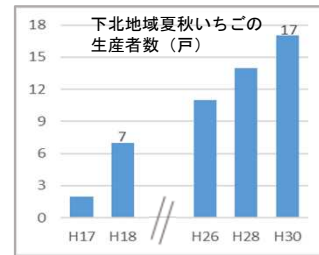
選果作業の様子



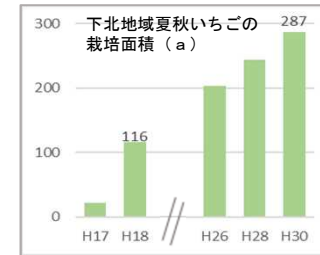
栽培研修会開催の様子

### 【取組と成果】

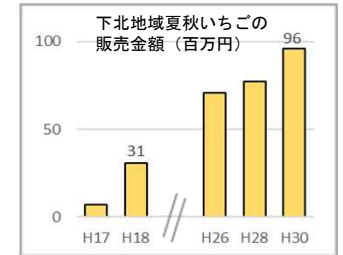
- 本出荷組合の農業者同士の交流も盛んに行われ、技術的な意見交換を行い、いちご栽培技術の底上げを図る。
- 新規就農者への研修を受入れ（研修生は農業次世代人材投資事業準備型を活用）、ここから独立した就農者（特に非農家からの新規参入）が多数。
- 経営規模の維持、拡大にあたり、換気装置やかん水装置を自動化し、栽培管理の省力化を図る。
- 本出荷組合を含めた下北地域の夏秋いちごは、ハウス品目で下北地域初の販売金額「1億円台」を目指す。販路も確立しており、今後も規模拡大等を図る予定。



※ 県下北地域県民局調べ



※ 県下北地域県民局調べ



※ 県下北地域県民局調べ

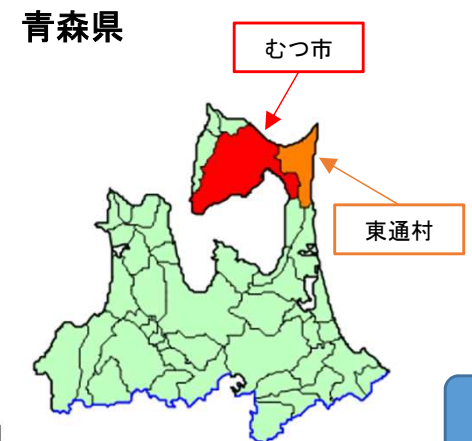
### 【経営の概要】

- 出荷組合設立 平成18年（2006年）
- 代表者 村田 睦夫 氏
- 生産者 平成18年：7戸→令和2年：11戸  
栽培面積 平成18年：116a→令和2年：263a  
夏秋いちご（すずあかね、赤い妖精等）
- 販売額 平成18年：31百万円→令和2年：70百万円

### 【取組地域の概要】

- 青森県 むつ市
  - 主要作物（農業産出額）
    - 鶏（8.7億円）
    - 乳用牛（生乳）（5.6億円）
- 青森県 東通村
  - 主要作物（農業産出額）
    - 肉用牛（3.2億円）
    - 乳用牛（生乳）（1.5億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



## 機械化一貫体系による大規模な業務用ねぎ栽培

かぶしがいしゃ

あきたけん おがし

### 株式会社おがフロンティアファーム〔秋田県男鹿市〕

#### 【工夫のポイント】

- （農）いりあいファーム滝の頭と相互の技術的交流を通じて、栽培技術の向上に努める。
- 各作業の単純化に取り組み、作業を効率化。
- 一定量を安定的に出荷するため、実需者と連携し事前に年間生産出荷計画を策定。
- 収穫前に月間、週間の規格ごとの必要出荷量を確認し、常に実需者が求める出荷量・品質を維持。
- 降雨等により収穫作業が困難な場合に備え、常時5～10トンをストックし、天候に影響されない出荷システムを構築。



ねぎ栽培ほ場（1ha規模）



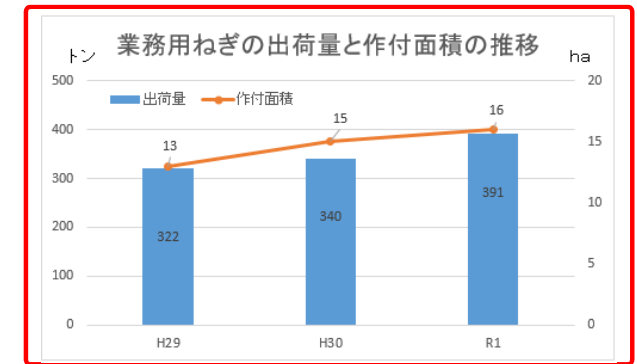
収穫作業（秋田県提供）



調製作業（秋田県提供）

#### 【取組と成果】

- 県単事業及び国の産地パワーアップ事業等を活用して機械等を整備し、機械化一貫体系による大規模ねぎ栽培を実現。
- 専用収穫機での収穫後に、各種機械による調製作業を経て出荷し、契約先の大手全国ラーメンチェーン店等へ販売。
- 契約価格は市場価格と連動せず、一年を通じて固定価格とすることで、安定的な収入を確保。
- 県外にもねぎ栽培ほ場を設置し、12月から4月上旬までは県外のほ場で収穫・出荷を行うことで、年間を通じて従業員の安定雇用を実現。



#### 【経営の概要】

- 設立 平成29年度
- 代表者 代表取締役 宮川 正和 氏
- 雇用人数 2名
- 主な栽培品目及び面積 ねぎ16ha（R1現在）
- 取組のきっかけ  
男鹿市五里合地区の大区画ほ場整備を契機に当地区の担い手組織の一つとして平成29年度から営農開始。

#### 【取組地域の概要】

##### ●秋田県男鹿市

##### ○主要作物（農業産出額）

米（29.0億円）

野菜（7.0億円）

果実（2.6億円）

肉用牛（1.2億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



## 輸出拡大による販路開拓で産地競争力を強化

のうぎょうきょうどうくみあい あおもりけん ごしょがわらし  
**ごしょつがる農業協同組合〔青森県五所川原市、つがる市〕**

### 【工夫のポイント】

- 県内有数の稲作地帯として米を生産しているが、国内需要の減少に対応するため、平成25年から輸出を開始。
- 輸出事業者から精米での出荷の要望もあったことから、国の事業（農畜産物輸出拡大施設整備事業）を活用し精米施設を建設。
- 遠方まで輸送し精米していた米を産地で精米することで物流コストが圧縮され、農家の収入が増加。
- 産地で精米した米の品質低下を防止することでブランド力を強化するため、真空包装機を整備。



精米施設外観



精米機



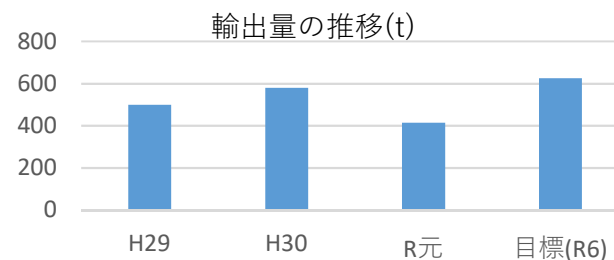
真空包装機

### 【経営の概要】

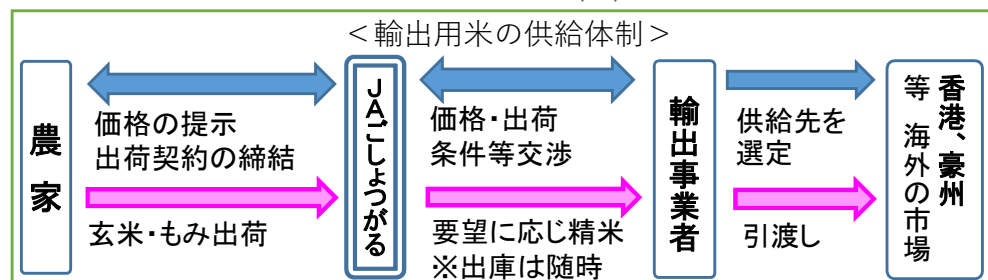
- ごしょつがる農協は、平成21年7月1日にごしょがわらし農協と木造町農協の合併により誕生
- 水稻品種別作付面積（令和元年度）  
 まっしぐら（3,860ha）、つがるロマン（390ha）、青天の霹靂（131ha）、その他（19ha）
- 稲作を中心にりんご、特産品であるメロン等の園芸作物の作付に取り組む
- 人口減少などを背景に米の国内需要は今後も減少することから、安定した供給先を確保するため、平成25年産から輸出にも積極的に取り組む

### 【取組と成果】

- 輸出量は年々増加してきたが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響で減少。令和6年度には625tの輸出を目標。
- 品種はまっしぐらで、輸出先国は香港・豪州。
- コメ海外市場拡大戦略プロジェクトに戦略的輸出基地として参加し、戦略的輸出事業者と連携して輸出拡大に取り組む計画。



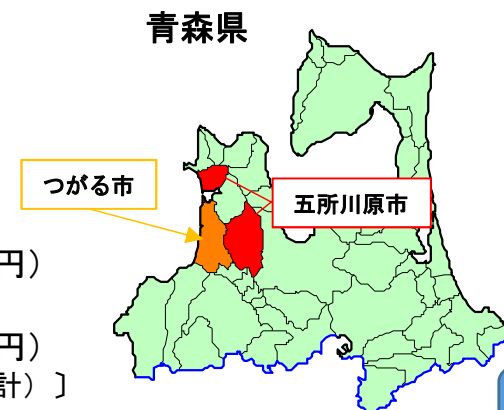
※R元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少



### 【取組地域の概要】

- 青森県五所川原市、つがる市

- 主要作物（農業算出額）  
 五所川原市：米（67.6億円）  
 りんご（30.7億円）  
 つがる市：米（103.1億円）  
 りんご（17.5億円）  
 [平成30年市町村別農業算出額（推計）]





## 福島産ももの美味しさと安全性をアピールし輸出を回復

ふくしまけん ぜんのうふくしま みらい ふくしまけんほくとうぶ  
**福島県、JA全農福島、JAふくしま未来〔福島県北東部〕**

### 【工夫のポイント】

- CAコンテナ※の活用により、航空便から船便に切り替え、品質を確保するとともに輸送コストの大幅な削減と鮮度保持による商品ロスを軽減。
- 輸出先国に直接出向いての情報収集や、現地法人など販売先との直接交渉により、福島産ももの品質、安全性を直接PRして販路を拡大。



カンボジアでの試食販売



福島産桃売り場



マレーシアでの販売の様子

### 【取組の概要】

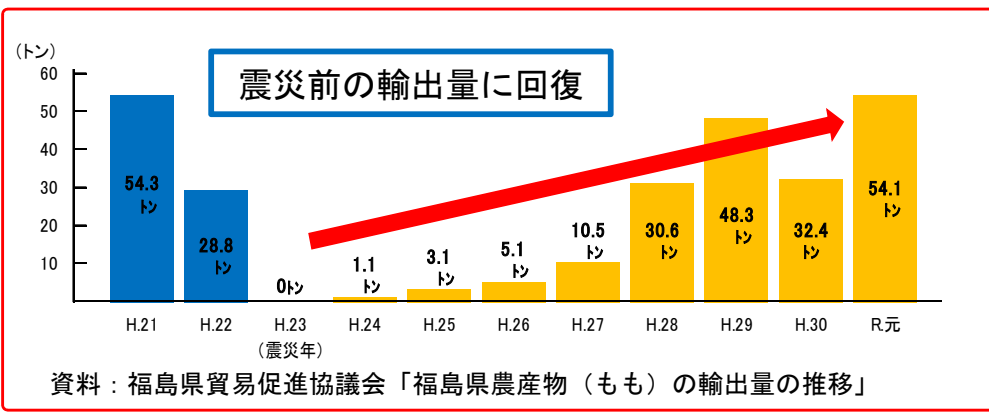
- 主な輸出品目（青果物）  
もも、なし、ぶどう、りんご、あんぽ柿
- 主な輸出先国・地域  
タイ、マレーシア、シンガポール等
- 取組のきっかけ

福島産青果物は香港、台湾を中心に輸出を伸ばしていたが、東日本大震災による原発事故に伴う風評被害や、香港、台湾等が福島県からの輸入を停止するなどにより大きな影響を受けた。こうした中で、福島産青果物の輸出量回復に向け、新たな輸出先国の開拓を目指し、タイ、マレーシアなどの東南アジアへの輸出の取組を展開。

※CAコンテナ（Control Atmosphere Container）  
リーファーコンテナ（冷凍・冷蔵コンテナ）の一種。温度だけでなく、酸素と二酸化炭素濃度を調整し、青果物の貯蔵期間を伸ばすことができる。

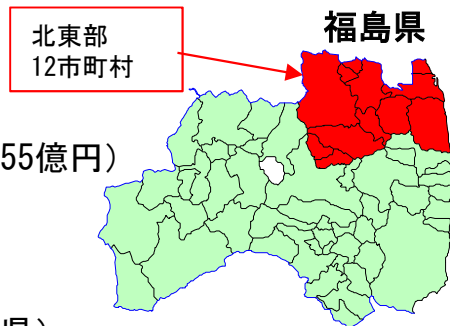
### 【取組と成果】

- 鮮度保持期間を延ばすことにより、一般消費者が購入できる販売価格を実現し、取引数量が拡大。
- 現地の消費者に日本産ももの知名度が低かったため、安全性のアピールと試食・宣伝を実施。試食した人の多くがその場でももを購入しており、試食の効果は大きい。
- 福島産もものブランド価値を向上させ、令和元年度にはタイ、マレーシア、インドネシア、カンボジアで日本産の市場シェア1位を獲得し、震災前の水準に回復。



### 【取組地域の概要】

- 福島県北東部（12市町村）
- 主要作物（農業産出額）  
果実（200.3億円）※福島県計（255億円）  
野菜（149.0億円）  
米（120.5億円）  
〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕
- 平成30年産ももの結果樹面積（福島県）  
1,600ヘクタール（山梨県に続き全国第2位）  
〔平成30年産果樹生産出荷統計〕





農林水産大臣登録第62号

## 山形セルリーのブランド確立による付加価値の向上

やまがたし やまがたけん やまがたし  
JA山形市〔山形県山形市〕

### 【工夫のポイント】

- 首都圏での販路拡大にあたり、他産地のセルリーと差別化を図るため、GI登録産品であることを全面にPRし販売促進活動を展開。
- 山形県在住の有名シェフ、デザイナーとの連携した活動により知名度及びブランド化の普及活動を強化。
- 生産の拡大が安定した販売数量の確保、契約販売店との継続的な取引、販売期間の拡大（1週間から2週間へ）と好循環。
- 評価の高まりにより、生産者のプロ意識と技術の向上、働きがいのある組織の枠組み作りに発展。



ハウス栽培の圃場



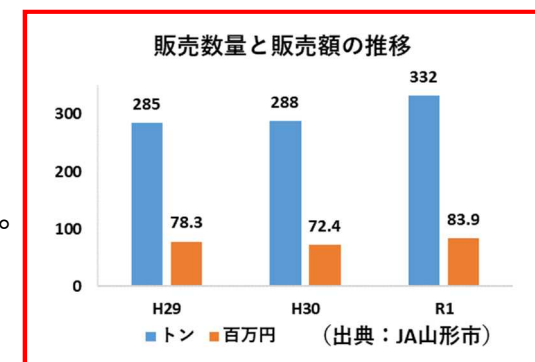
出荷された山形セルリー



セルリー部の生産者

### 【取組と成果】

- ベテラン生産者による研修制度を確立し、生産者の育成、技術の継承に取り組み、安定した品質管理と販売数量の確保を実現。（元年4月から1名研修中。平成26年度から延べ7名が研修受講。）
- GI登録に続き、JGAP取得、地域団体商標登録ブランドを確立し、商品付加価値の向上により、販売額も安定して増加、組織経営の強化につながっている。セルリーの産地としてブランド化を果たし、高い評価を得る。
- 主な販売先は、山形県・宮城県・首都圏で、GI登録した平成30年度から販売数量は、2割弱、販売額も1割程度増加。



### 【経営の概要】

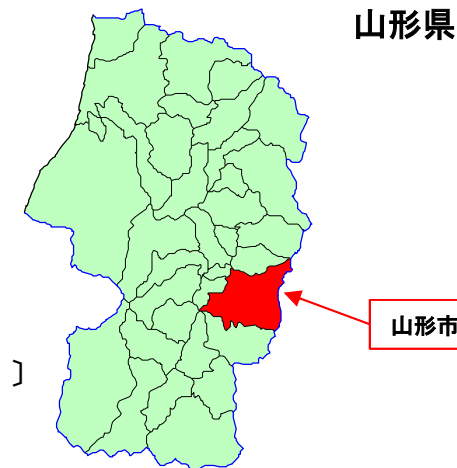
- JA山形市に野菜園芸専門委員会セルリー部を組織。JAと生産者が一体となりブランド化を推進。（GI登録：平成30年4月）
- 生産者数 21名（新規就農者5名）
- 栽培面積  
平成29年度3.6ha、平成30年度4.1ha、令和元年度4.6ha
- 取り組みのきっかけ  
生産者の高齢化が進んできたことから、更なるブランド化による産地の活性化を目指してGI申請。

### 【取組地域の概要】

- 山形県山形市
- 主要作物（農業産出額）
 

果実	(41.1億円)
野菜	(33.8億円)
米	(33.4億円)
花卉	(6.5億円)

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕





## 技術の伝承と巧みな販売戦略で安定的な販売

ふたご きょうぎかい いわてけん きたかみし  
 二子さといも協議会 [岩手県北上市]

### 【工夫のポイント】

- 協議会が生産者にGI生産者団体会員のメリットを実感させるため、伝統の栽培技術を伝承。
- PRイベントでは、芋の子汁をレシピとともに無償提供し、製品の購入を誘導。また、製品の販売量を抑え気味にして、売り切れ後、手に入れられた喜びを感じさせることを狙う。  
 (買えなかった消費者に「次こそ手に入れたい」、「産地へ注文しよう」と感じさせることも狙い)
- 生産者をPRイベントに参加させ、消費者の反応を直接感じてもらうことにより、製品に対する自信と誇り、生産意欲を醸成。



二子さといもの圃場



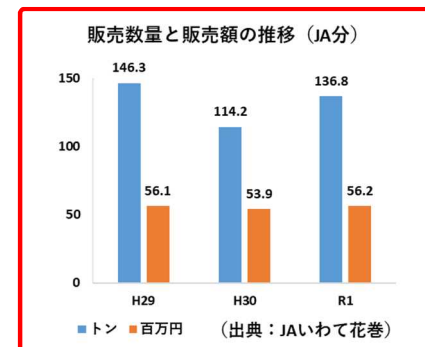
収穫された二子さといも



首都圏でのGIイベント

### 【取組と成果】

- 栽培講習会や代々受け継いできた種芋の貯蔵方法の調査を行い、ベテラン生産者のノウハウを共有。また、食味調査会（感応試験）を行い、品質のバラツキの有無を確認。
- 出荷開始時期に合わせたマスコミへのリリース（出発式等）を行い、二子さといもシーズンの到来をアピール。
- 地元小学生への体験講座や首都圏で開催されたGIイベント等で生産者が製品をPR。
- 上記の取り組みにより、関東、大阪からも宅配注文を受けるなど、販路が広がりつつあり、年間販売額の増加（JA出荷分）で、生産者の意欲向上と新規就農者の協議会入会に繋がっている。

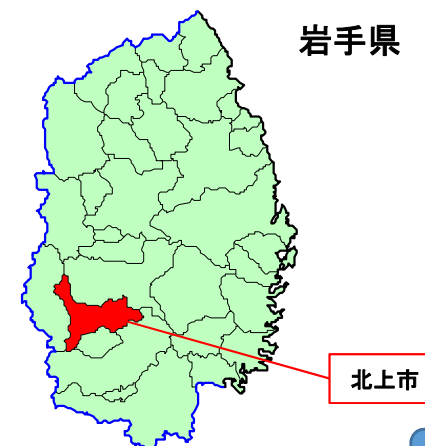


### 【二子さといも協議会の概要】

- 設立 平成29年6月 (GI登録：平成30年9月)
- 構成員
  - ・生産者138名 (農事組合法人2、社会福祉法人1含む)
  - ・岩手県南広域振興局花巻農林振興センター、岩手県中央農業改良普及センター、JAいわて花巻北上地域営農グループ、北上市 (事務局)
- 栽培面積 (北上川流域の二子地域を中心に北上市内で栽培)  
 平成29年 34ha、平成30年 26ha、令和元年 25ha
- 取り組みのきっかけ  
 長年守ってきた産地と技術を、更なるブランド化で次世代に繋げるため、GI申請に向け協議会を設立。

### 【取組地域の概要】

- 岩手県北上市
- 主要作物 (農業産出額)  
 米 (58.2億円)  
 豚 (21.8億円)  
 野菜 (15.9億円)  
 肉用牛 (6.6億円)  
 [平成30年市町村別農業産出額 (推計)]





## 樹上完熟させたいちじくでこだわりの逸品をつくりあげる

のうえんかぶしきがいしや みやぎけん やまもとちょう  
**やまうち農園株式会社**〔宮城県山元町〕

### 【工夫のポイント】

- 販売方法のこだわり  
生食用いちじくの注文はネットを通じて受け付け、樹上でギリギリまで完熟させて収穫し、その日のうちに消費者へ直接発送。
- 加工品の特徴  
完熟いちじくをつかったグラッセは加工後も保たれるその大きさ、やわらかさと果実本来の十分な甘みが楽しめる人気の逸品。
- 積極的な販路開拓  
商工会を通じた地元企業とのつながりや各種商談会への積極的な参加により県内外へ着実に販路を開拓しており、某航空会社の機内販売商品「ドライフルーツセット」の原料に採用されたり、有名洋菓子店からの依頼で生食用いちじくのタルトを試験販売したりするなど、品質が高評価を得る。



いちじくの木



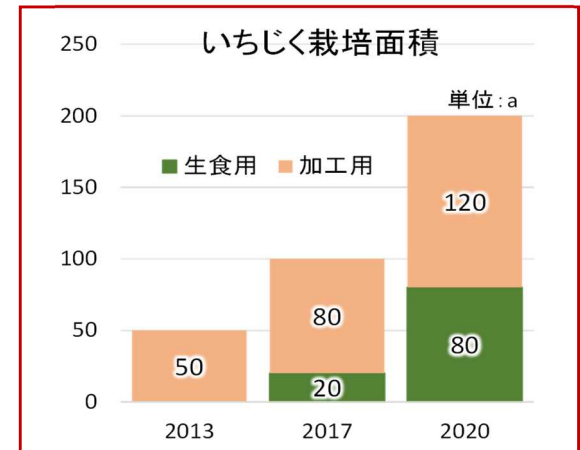
絶品！グラッセ



取締役 裕貴氏(左)、代表 啓二氏(右)

### 【取組と成果】

- 生食用いちじくは県内でなじみが薄かったが、完熟したいちじくにこそ本当のおいしさが詰まっていることを多くの人に伝えたいと地元での対面販売からそのおいしさを徐々に広め、ネットを通じた日本各地への直送販売へと展開。
- 2017年、自宅脇に加工場を併設して本格的に加工品販売を開始。積極的な販路開拓とともにSNSでの情報発信に力を入れたことで人気がいっそう高まり、売り上げを伸ばすきっかけとなった。
- 2020年の6次産業化総合事業計画の認定を機に生食用、加工用ともに生産拡大を図ることとし、新たに規格外品を生かした「いちじくグミ」と砂糖不使用のグラッセの製造に取り組む。



### 【経営の概要】

- 設立 2013年～栽培開始、2020年4月～法人化
- 代表者 代表取締役 山内 啓二 氏
- 雇用人数 3名(臨時雇用)
- 主な栽培品目及び面積 いちじく 2ha  
(ビオレ・ソリエス(生食用)ブルンスウィック(加工用)等 20品種)
- 取組のきっかけ  
退職を機に家の周りがある農地を有効活用しようと近隣で栽培されていたいちじくに着目。一般的だった甘露煮向けの加工用品種と差別化できるよう、生食用品種にも挑戦。

### 【取組地域の概要】

- 宮城県亶理郡山元町
- 主要作物(農業産出額)  
野菜 (15.6億円)  
・いちご(13.4億円)  
米 (8.9億円)  
果実 (1.2億円)



〔平成30年市町村別農業産出額(推計)〕

こだわりの「眠れる森のたまご」を使った商品開発等による所得向上

ゆうげんがいしゃざおうけいえん

みやぎけん ざおうまち

有限会社蔵王鶏園〔宮城県蔵王町〕

【工夫のポイント】

○卵へのこだわり

鶏を半日以上眠らせストレスを減らして産卵数を2割程度抑え、たんぱく質を豊富に含んだ餌と蔵王の天然水を与えることで、殻が固くプルプル食感の健康卵「眠れる森のたまご」を生産。

○商品へのこだわり

卵を使った料理、マヨネーズやプリン等、従業員のアイデアを取り入れ、原料も厳選した全て手作りの卵加工品を提供。

○デザインへのこだわり

ロゴマーク、レストランや加工品パッケージ等は、デザイナーの家族が統一したコンセプトでデザイン。



farmer's café  
「corrot.」



落ち着いた雰囲気の店内  
(手前は、直売コーナー)



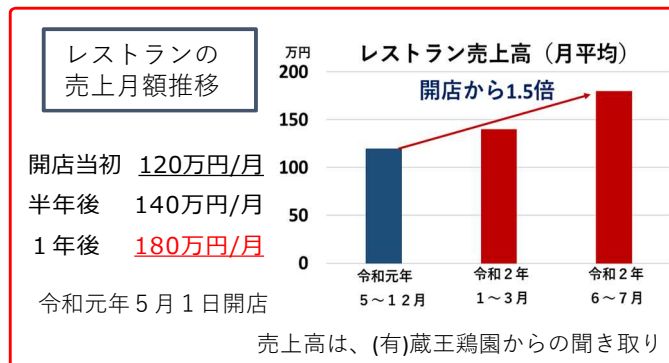
統一されたデザイン  
(人気のプリンと店のロゴマーク)

【取組と成果】

○令和元年5月、宮城県の補助事業を活用してカフェレストラン兼直売所「corrot.」を整備。景色の良い高台で趣のあるレストランではオムライス、プリンやシフォンケーキなどを提供。料理や加工品の美味しさが評判を呼び、来店客によるSNS拡散も後押しし、県内だけではなく近県や関東から若者や家族連れの来店客が増え、売上げが増加。

○蔵王町の支援を受けて各種イベントに積極的に出展して加工品をPR。週に1度、百貨店の地下食品売場で営業を行い、同店のギフト商品に採用。

○地域の主婦を従業員として採用。申請時の4名から6名と2名増加、女性の活躍できる場を提供。



【経営の概要】

- 設立 昭和53年
- 代表者 代表取締役 我妻 和夫 氏
- 雇用人数 8名 (臨時雇用含む)
- 経営内容 養鶏業 採卵鶏 約2万羽
- 取組のきっかけ



蔵王鶏園

「眠れる森のたまご」をイメージした会社のロゴマーク

東日本大震災、平成25年豪雪により鶏舎が被害を受け、採卵鶏6万羽から2万羽へ経営規模を縮小。このようなリスク対応や人材活用のため、自社の卵を使用したレストラン経営及び併設した直売コーナーで卵加工品の製造・販売に取り組む。


【取組地域の概要】

- 宮城県刈田郡蔵王町
- 主要作物 (農業産出額)  
鶏卵 (9.8億円)、肉用牛 (7.8億円)  
果実 (7.8億円)、生乳 (7.4億円)  
野菜 (7.3億円)、米 (7.0億円)



〔平成30年市町村別農業産出額 (推計)〕





## 第3章

# 強い農業の創造に向けた取組



## 宿根かすみそうで地域農業を守る

しょうわむらしんきのうぎょうさんにゆうすいしんきょうぎかい ふくしまけんしょうわむら  
**昭和村新規農業参入推進協議会**〔福島県昭和村〕

### 【工夫のポイント】

- かすみの学校の開設（2017年開設）  
 就農希望者等を対象に宿根かすみそう栽培研修を行うため、「かすみの学校」を開設。最短で1日から参加できる。本格的な1年間の研修の呼び水になっている。具体的に就農を検討する研修生に対しては、指導農家が研修後に就農1年目まで指導を継続。
- 積極的なPR活動  
 東京等で開催される新・農業人フェア等の出展、パンフレットの作成等のPR活動を展開。
- 雪室を利用した有利販売による就農者支援  
 生産者からJAに出荷された宿根かすみそうは、雪室（雪中貯蔵）を活用して鮮度を保持し、市場価値を高めて他地域より高値で販売。就農者の安定した収入確保に寄与。



パイプハウスの設置作業



収穫作業



JA職員による説明

### 【取組と成果】

- 新規就農者、研修生への多様な支援  
 国の支援の他に、村役場は農地の斡旋や住宅家賃、農地賃貸料等を補助。経営・技術は普及所、営農資金・販路確保はJA、農地は農業委員会などと組織内で協力しサポート。「かすみの学校」も運営。
- 新規参入者の声  
 インターネットで「かすみの学校」を知った。本学校での経験から、周囲のバックアップ体制がしっかりしていると感じた。就農にあたり、研修先や地域の生産者等の紹介により、機械や資材を譲り受けられる等、地域の方々のサポートも大きいと感じた。
- これらにより、平成22年度から令和元年度までの新規就農者数のうち離農者数は0人と、他地域にない高い定着率に寄与。高齢化で引退者が増える中、宿根かすみそうの産地を維持。

#### 昭和村の宿根かすみそう栽培の新規参入者等の状況

(年度)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R.1	計
新規就農者数	1	1	3	0	0	1	1	2	2	3	14
うち離農者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(参考)農家数	-	-	-	-	52	52	53	53	56	57	-

### 【昭和村新規農業参入推進協議会の概要】

- 設立 平成15年度
- 構成機関 村、農業委員会、JA、生産団体、県（普及所）
- 取り組みのきっかけ  
 農家の高齢化、減少により地域農業の崩壊が懸念されたため、平成15年度に「昭和村新規農業参入推進協議会」を立上げ。村と地域の関係機関が協力して、新規就農者、研修生に対し技術支援、農用地の斡旋、補助事業等を実施。

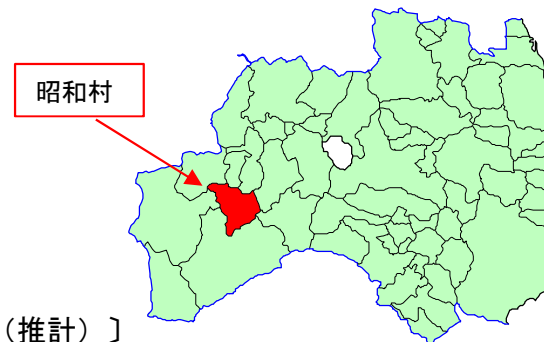
### 【取組地域の概要】

- 福島県大沼郡昭和村

- 主要作物（農業産出額）  
 花き（3.7億円）  
 米（2.1億円）  
 野菜（0.2億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

福島県



## 地域で育てた新規就農者が地域農業の担い手に

ちいぎていじゅうのうぎょうしゃいくせい

やまがたけんしょうないちいき

## 地域定住農業者育成コンソーシアム〔山形県庄内地域〕

### 【工夫のポイント】

- 地域で連携してサポート  
コンソーシアム構成員が連携して、就農希望者を多方面から支援する体制を庄内全域に作り、地域定住に繋げている。
- 実践力を育成する講座事業  
山形大学の協力を得て「食と農のビジネス塾」や「農業スタートアップ塾」を開講し、販売力強化やビジネス計画書の作成を学ぶ。
- 繋がりを切らさずに支援  
定期的な交流やメルマガ配信、就農・自立化相談などで、長期にわたり支援を継続して実施。



座学の様子



販売実習

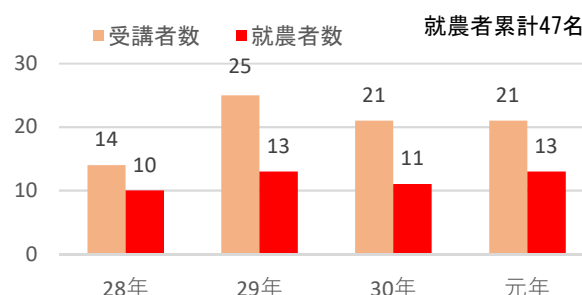


よろず相談

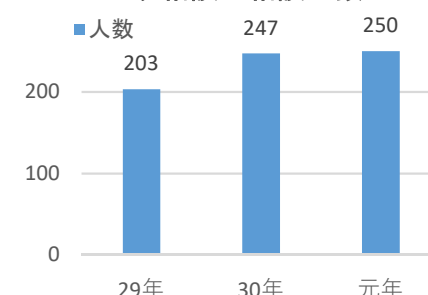
### 【取組と成果】

- 構成員が連携して実施する、住宅・機械支援、資金・販売支援、農地支援など地域定住へと繋げる取り組みに加え、山形大学と連携して実施するプロ農業者の育成に向けた研修指導の取組により、食と農のビジネス塾修了生の半数以上が毎年新規就農し、47名が地域農業の担い手となり活躍。
- 専門技術者などが対応にあたる、就農・自立化相談や様々な障害の克服を支援する「よろず相談」が広く活用されており、新規就農者の定着やセーフティネットとしての役割を果たす。

ビジネス塾の受講者数と就農者数



よろず相談の相談人数



### 【コンソーシアムの概要】

- 設立 平成28年4月
- 構成員  
域内自治体（鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町）、域内JA（5団体）、山形大学農学部、鶴岡商工会議所、出羽商工会、庄内銀行、鶴岡信用金庫、庄内総合支庁農業振興課・農業技術普及課、日本政策金融公庫山形支店、団体・個人会員。
- 取組のきっかけ  
農業を志す青年等の自立（経営感覚の優れた担い手）と経営力・技術力強化に向け、総合的・継続的に支え地域定住に繋げるとともに、地域農業・経済の維持・発展を目的とし発足。

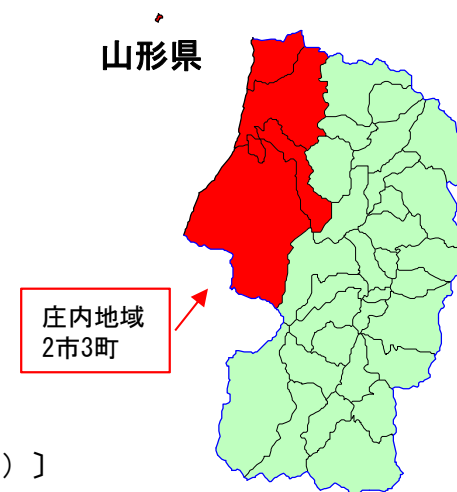
### 【取組地域の概要】

#### ●山形県庄内地域（2市3町）

- 2市3町（農業産出額）  
合計（705.4億円）
- 主要作物（農業産出額）  
米（338.4億円）  
野菜（207.9億円）  
豚（65.5億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

山形県



庄内地域  
2市3町

## 大規模ブロックローテーションで高い大豆単収を実現

のうじくみあいほうじんこわくび

あきたけん だいせんし

### 農事組合法人強首ファーム〔秋田県大仙市〕

#### 【工夫のポイント】

##### ○ブロックローテーションの確立

1ha区画に整理されたほ場を団地化し、大豆3年－水稻3年のブロックローテーションにより計画的な栽培を実施。

##### ○ほ場の排水性改善

強粘質で排水性が悪く、畑作物には不適な土壌条件であったため、基盤整備による暗渠排水の設置と大規模連坦団地により、ほ場の地下水位の低下を図り、さらに、大豆ほ場には、毎年弾丸暗渠を施工し排水性を強化。

○耕起から播種、除草、中耕・培土、病害虫防除、収穫まですべて機械化一貫体系。



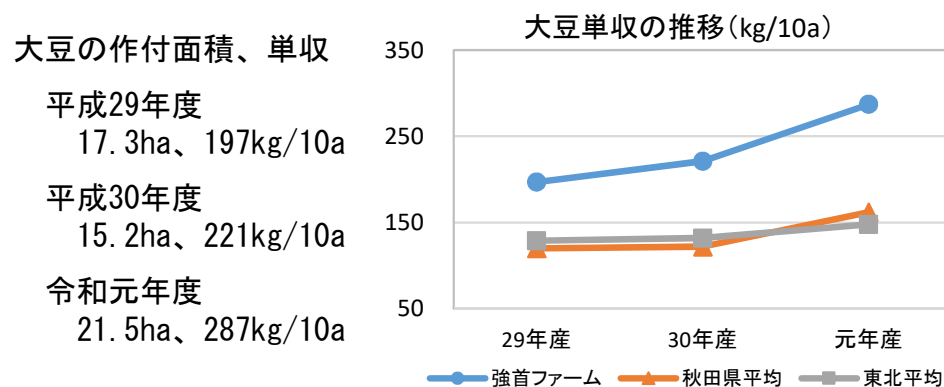
大区画ほ場での追肥作業

#### 【取組と成果】

○過去3年間の平均単収は235kg/10aと安定した単収を実現。(H29～R元年)

○ほ場の大区画化と団地化に加え、機械化一貫体系により、大豆作での労働時間は4.0時間/10a（R元年）となり、大幅な省力化に成功。

(参考：H30年東北の大豆作労働時間（個別経営）8.2時間/10a)



#### 【経営の概要】

○設立 平成21年4月

○代表者 代表理事 小山田 和人 氏

○構成農家戸数 24戸

○主な栽培品目及び面積（令和元年度）

大豆21.5ha、水稻30.9ha、園芸品目3.8ha（枝豆、はくさい、キャベツ等）

○取組のきっかけ

基盤整備事業を契機に、既存集落営農組合を母体とした、農事組合法人強首ファームを設立し、大区画ほ場を活かした、水稻・大豆のブロックローテーションを展開。

#### 【取組地域の概要】

●秋田県大仙市

○主要作物（農業産出額）

米 (153.0億円)

野菜 (39.4億円)

豚 (20.3億円)

肉用牛 (7.4億円)

豆類 (2.7億円)

[平成30年市町村別農業産出額（推計）]

秋田県



大仙市



## ブロックローテーションと排水対策による高品質・高単収の大豆栽培

のうじくみあいほうじんとおの のうさん いわてけん とおのし  
農事組合法人遠野こがらせ農産〔岩手県遠野市〕

### 【工夫のポイント】

- 作付けほ場を団地化し、水稻2年—大豆1年のブロックローテーションを基本とし、数年先までブロックごとの作付計画を立てることで、次作を意識したほ場管理を実施。
- 明渠による地表排水の徹底等により、排水条件の良好なほ場を拡大。また、生育初期の湿害回避のため「小畦立て播種技術」（岩手県農業研究センター開発）を導入、さらに、独自に播種機を改良し、ブロックローテーションの水稻後作で大きな土塊になりやすい粘質土壌のほ場での畦立て作業を容易にしている。
- 単収向上に向け、大粒・多収の新品種「シュウリュウ」を地域内で先駆けて導入し、特徴を把握した適期作業を実施。



ほ場巡回の様子



大豆育成中のほ場



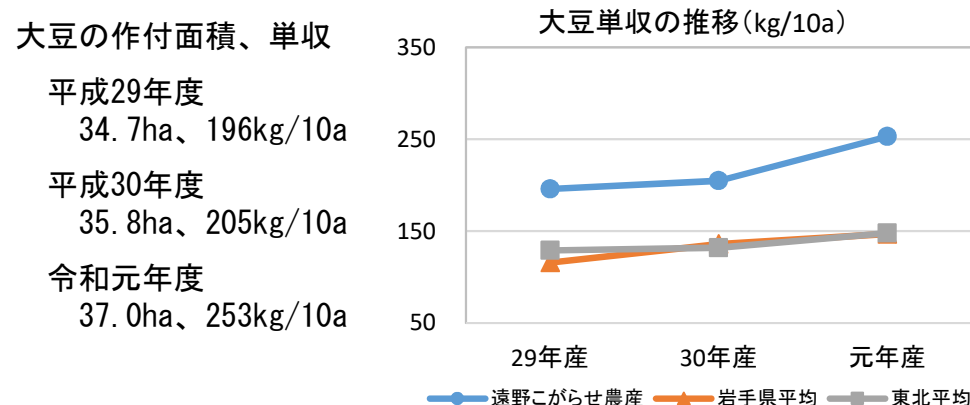
収穫前のほ場

### 【経営の概要】

- 設立 平成25年11月
- 代表者 代表理事 立花 利夫 氏
- 構成農家戸数 185戸
- 主な栽培品目及び面積（令和元年度）  
大豆37.0ha、水稻99.8ha、飼料作物7.6ha、ピーマン0.4ha
- 取組のきっかけ  
平成14年度に基盤整備事業を契機に設立された、農地利用調整組織「土淵地区営農組合」と担い手生産組織「こがらせ会」を始点とし、平成25年度には、組織の強化を図るため法人化し、農事組合法人「遠野こがらせ農産」を設立。

### 【取組と成果】

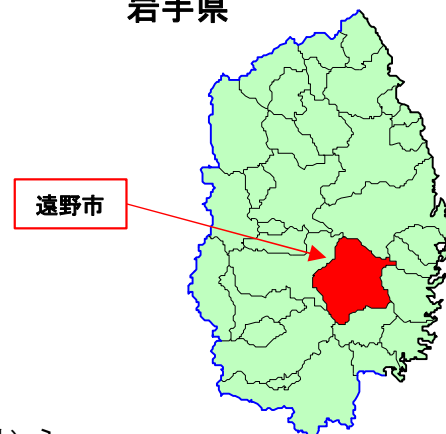
- 過去3年間の平均単収は222kg/10a、各年度とも県平均を大幅に上回る安定した単収を実現（H29～R元年）。
- ほ場の大区画化と団地化に加え、オペレーター専任による機械作業等により、大豆作での労働時間は4.0時間/10a（R元年）と大幅な省力化に成功。  
（参考：H30年東北の大豆作労働時間（個別経営）8.2時間/10a）



### 【取組地域の概要】

- 岩手県遠野市
- 主要作物（農業産出額）  
米（20.0億円）  
肉用牛（19.1億円）  
野菜（10.7億円）  
乳用牛（9.0億円）  
豆類（0.3億円）

### 岩手県



〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

## 第4章

# 地域資源を活かした農村の振興・活性化に向けた取組





『活気ある、ずっと住み続けたい町』を目指し、ICTを使って子どもからお年寄りの暮らしを支援  
にしあいづちいきかっせいかきょうぎかい ふくしまけんにしあいづまち  
**西会津地域活性化協議会〔福島県西会津町〕**

【取り組んでいるプロジェクト】

【プロジェクト1】R1～  
**埼玉県戸田市との教育連携・学習支援**

埼玉県戸田市との遠隔会議システム環境の整備、西会津小学校児童への学習支援用タブレット配布による、教育支援



公立大学法人 会津大学

ICT関連事業に関するアドバイザー

【プロジェクト2】R1～  
**イノシシ被害対策**

動体感知カメラ、振動感知センサーを活用したイノシシの生態状況等把握



【プロジェクト3】R1～  
**認知症高齢者等の見守り**

GPS端末を活用した認知症高齢者等の見守りサービス



【プロジェクト4】R2～  
**農林産物等集荷及び買い物支援等**

農林産物等出荷農家及び移動販売業者等、直売所関係者を対象としたタブレット講習会の開催によるネットワーク構築、当該ネットワークを使った野菜等集荷・買い物支援



【プロジェクト5】R2～  
**働きざかりの若者の健康づくり**

企業の社員個人が活動データや睡眠データ、体重、血圧などを記録するスマートフォンアプリを使った自らの健康づくり



【取組の概要】

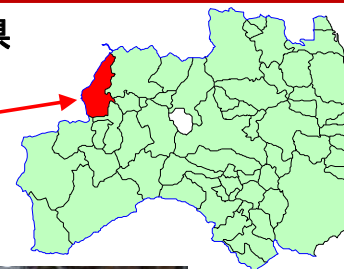
○若い担い手や高齢者等が西会津町に住み続けられるよう、ICTを活用し、児童の教育支援、若い世代の健康づくり、認知症高齢者等の支援、買い物弱者支援、さらに有害鳥獣被害の軽減対策のため、タブレット等を利用した遠隔学習による教育支援、GPSでの高齢者見守り、カメラとセンサーによるイノシシ生態状況把握と被害防止など5つのプロジェクトを令和元年度から、定住条件の強化を図るために実証を開始しました。

【農業の成長産業化】

○福島県の北西部、新潟県との県境に位置する本町は、寒暖差が大きい地域特性から全国でもトップクラスの食味を誇る米の産地です。また、ミネラル野菜の生産振興、菌床しいたけなど、きのこの大規模産地化の推進に取り組んでいます。

福島県

西会津町



肉厚の菌床しいたけ

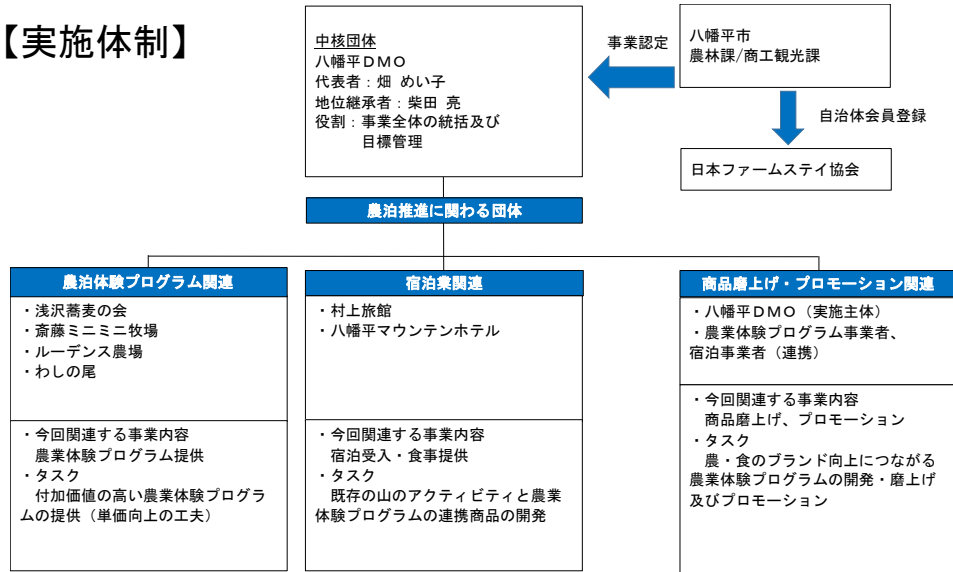


健康な土で栽培したミネラル野菜

# インバウンドの経済効果を農泊の取組を通じて地域に波及させる

はちまんたい きょうぎかい いわてけん はちまんたいし  
**八幡平ファームステイ協議会** [岩手県八幡平市]

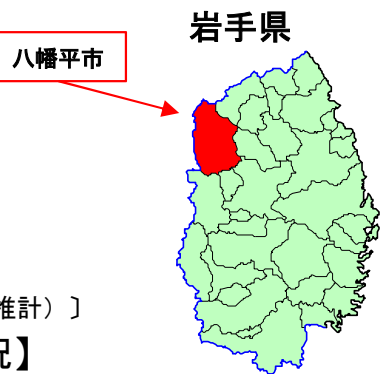
## 【実施体制】



## 【取組内容】

- インバウンド対応に向けた取組
  - ・インバウンドに対応できる体験プログラムの造成（5プログラム）。
  - ・これまで修学旅行受入用に低価格で提供されていた体験を、インバウンド向けに高単価で受入できるようブラッシュアップ。
- 外国人向けモニターツアーの実施
  - ・地域の宝である地酒「鶯の尾」の酒蔵見学と、地域の食材と地酒のペアリングを楽しむ「八幡平オーベルジュツアー」を造成。
  - ・単なるりんご狩りだけではなく、りんごの皮むき、四季のりんご園の説明付き散策、りんごづくしディナー、りんごジャム作りなどを盛り込んだ「りんごづくしツアー」にすることでテーマ性を持たせ、満足度の高い高単価な商品を造成。
- マーケティングに係る取組
  - ・協議会ウェブサイトにて体験商品を販売。
  - ・体験プログラムと地域の宿泊施設を組み合わせた旅行商品を造成し、OTAなどを活用して継続的に販売。
  - ・海外旅行エージェント向けの体験タリフ（営業資料）を作成。
- 農場ゲストハウス構想の実現に向けたワークショップ等を開催。

## 【取組地域の概要】



- 岩手県八幡平市
  - 主要作物（農業産出額）
    - 米（28.2億円）
    - 野菜（22.6億円）
    - 乳用牛（23.1億円）
- [平成30年市町村別農業産出額（推計）]

## 【インバウンドの受入状況】

北東北の中心部に位置する岩手県八幡平市は、四季折々の絶景や秘湯、スキーリゾート等の観光資源に恵まれ、観光入込客数は年間200万人、宿泊者数約56万人のうちインバウンド宿泊は10万人。インバウンドの長期滞在に対応できる各種体験コンテンツを造成。

話題の観光スポット「八幡平ドラゴンアイ」



紅葉の絶景スポット「松川渓谷」



スキー場など豊かなアウトドア資源



地域の食の魅力と地酒のペアリングを楽しむ「八幡平オーベルジュ」のメニュー例



りんご園での体験を五感で楽しむ外国人モニター

事業の実施により、令和元年度は事業実施前（平成29年度）の4倍以上の売上げ実績を確保。



## 大豆生産と豆腐製造を通じた自立支援

しゃかいふくしほうじん いわてこうせいかい いわてけんもりおかし  
**社会福祉法人 岩手更生会〔岩手県盛岡市〕**

### 【工夫のポイント】

- 岩手県盛岡市にある「まめ工房緑の郷」は、社会福祉法人岩手更生会が運営する就労継続支援A型事業所で、知的障害者を中心とした施設利用者23名が、大豆生産、豆腐の製造・販売のほか、地域の営農組合や近隣農業者から農作業を請負、通年で農業活動を実施。
- 昭和50年に豆腐製造を開始して以来、原料となる大豆は、耕作放棄地を再生して自家生産しており、手造りの豆腐や油揚げを製造し、6次産業化に一貫して取り組む。
- これまでに請け負った農作業の内容が評価され、農作業の依頼や農地の耕作依頼が増加し、地域農業の担い手となっている。



大豆生産をする利用者

### 【取組と成果】

- 農業者の高齢化に加え、障害者の丁寧な作業が地域で評価されてきたことにより、農作業等の依頼は、平成20年度の2件から平成30年度には14件と、10年間で大幅に増加。  
 また、作業が評価されることで、請負報酬の引上げも実現。
- 豆腐の原材料を近隣農地で自家生産し、安心・安全な豆腐製造に取り組む。
- 障害者は、手作業のみならず、作業難度が高い乗用管理機や刈払機の操作まで行えるよう、ステップアップ中。
- 耕作放棄地の再生利用が評価され、平成23年度に全国農業新聞賞を受賞。



早朝からはじまる豆腐づくり



製造した豆腐

### 【団体の概要】

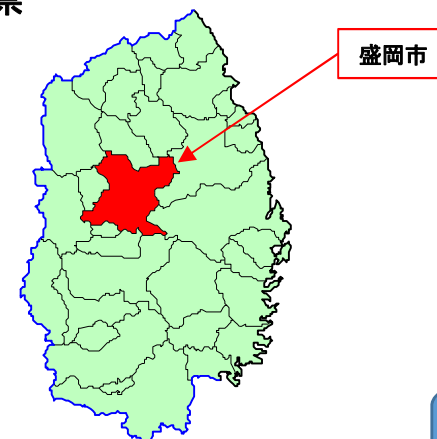
- 設立 昭和41年  
 ※平成20年に就労継続支援A型事業所「まめ工房緑の郷」を開設。
- 代表者 細田 重憲 氏
- 雇用人数 施設利用者23名
- 主な栽培品目及び面積  
 約12haの農地で大豆を自家生産、水稻7ha、長ねぎ0.3ha（うち、3.8haは耕作放棄地を再生利用）
- 取組のきっかけ  
 地域貢献に力を入れており、耕作放棄地の再生や農作業の請け負いを始めたこと。

### 【取組地域の概要】

- 岩手県盛岡市
- 主要作物（農業産出額）  
 米 （31.6億円）  
 野菜（26.1億円）  
 乳用牛（13.7億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

岩手県



## 高い品質の肉用牛を飼育することで黒字化を達成

しゃかいふくしほうじん がっさんふくしかい やまがたけんつるおかし  
**社会福祉法人 月山福祉会〔山形県鶴岡市〕**

### 【工夫のポイント】

- 山形県鶴岡市にある「作業所月山」は、昭和63年から農畜産業に取り組む社会福祉法人月山福祉会が運営する就労継続支援B型事業所で、知的障害者を中心とする施設利用者10名が、県特産豆の生産、果樹栽培とジャム製造、肉牛の飼育等を通年で実施。
- 日本短角種は、国産牧草のみで飼養。将来は、無農薬・無化学肥料の牧草で育てる「有機JAS認証牛」に発展させ、牧草地を借受けて、飼育頭数を拡大する予定。
- 「量」より「質」で勝負することで、畜産部門の黒字化を達成する見込みであり、工賃向上の実現にも取り組む。



日本短角種



らっかせいの収穫



加工品（ジャム）

### 【取組と成果】

- 庄内町所有牧場を指定管理者として借受け、総飼養頭数48頭のうち36頭を放牧。日本短角種を国産の粗飼料（牧草）のみで飼育。平成29年11月生まれの牛から「完全国産牧草牛」としてブランド化し、出荷の準備を進める。
- 輸入飼料による飼育が多い現状で、国産の粗飼料のみでの飼育は貴重。令和5年度には、全国的に珍しい、障害者が生産に携わった「有機JAS認証牛」の認証取得を目指す。
- （元）公営の牧草地44haに加え、令和3年度に50haの牧草地を借受け、約100haで飼養頭数の拡大を準備。
- 障害者が県の特産品である「だだちゃ豆」の生産に関わることで、生産量の維持に貢献。

### 【団体の概要】

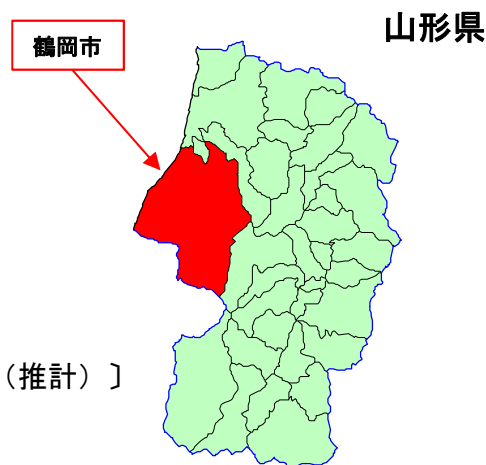
- 設立 昭和63年  
 ※平成19年に就労継続支援B型事業所「作業所月山」を開始
- 代表者 石川 一郎 氏
- 雇用人数 施設利用者10名
- 主な栽培品目及び面積  
 約4haの畑と100坪のハウス2棟で、県特産「だだちゃ豆」らっかせい、たまねぎ、にんにくなどの野菜を生産・販売  
 庄内柿、ブルーベリー、いちじくを栽培し、ジャムに加工して販売
- 取組のきっかけ  
 「無農薬・無化学肥料」にこだわり、栽培を始めたこと。

### 【取組地域の概要】

#### ●山形県鶴岡市

- 主要作物（農業産出額）  
 米 （140.8億円）  
 野菜（121.7億円）  
 乳用牛（0.6億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



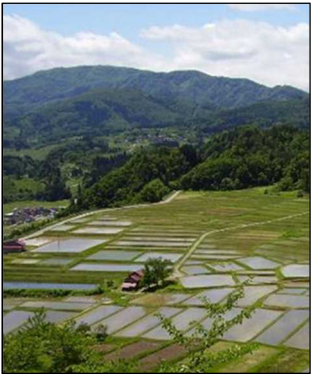


## ワークショップ(WS)による話し合いを基にできることから実践

くぬぎだいらたなだ ほぜんかつどうすいしんいんかい やまがたけん あさひまち  
**榎平棚田保全活動推進委員会〔山形県朝日町〕**

### 【工夫のポイント】

- 棚田保全を含めた地域づくりを進めるため、県・町・土地改良区が協力して地域との話し合いを実施。
- 身の丈に合った持続可能な取組とするため、「できることから実践していこう」を合い言葉にWSで作成した計画に基づく活動を実践（展望台の整備、棚田保全隊によるボランティア、ヒメサユリ祭り等）。
- 棚田の景観、天日干し、減農薬等で棚田米を付加価値販売。
- 地域おこし協力隊（ゆるキャラのウサヒ）の協力を活かした棚田のPR。



棚田の景観



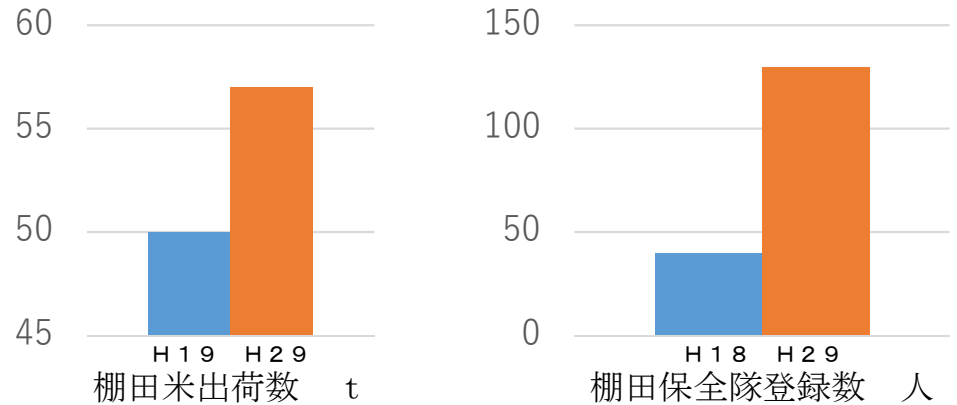
棚田保全活動（草刈り）



棚田米（天日干し自然乾燥の「つや姫」）

### 【取組と成果】

- 棚田米の出荷数量が増加。
- 棚田保全隊（ボランティア）登録数が増加。
- 展望台から棚田の風景を楽しむことから、年間6千人ほどの観光客を誘客。



### 【活動組織の概要】

- 設立：平成15年
- 構成員：耕作農家25戸
- 取組面積：14ha
- 活動内容：棚田保全活動・交流活動、棚田米のブランド化
- 取組のきっかけ：「日本の棚田百選」に選ばれたものの、棚田の荒廃と離農が進む状況にあったため、地域自らの危機感から保全活動をスタート。

### 【取組地域の概要】

- 山形県西村山郡朝日町

- 主要作物（農業産出額）

米（4.6億円）

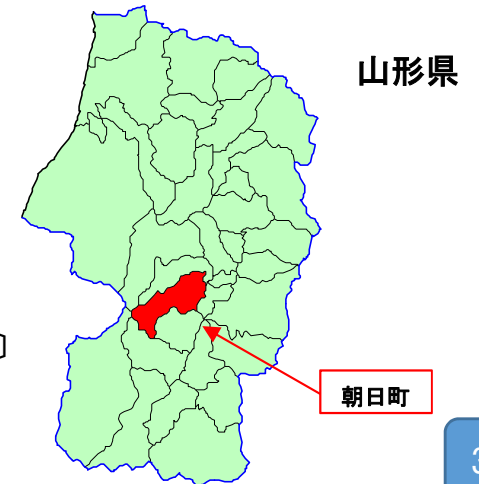
野菜（1.3億円）

果実（28.0億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

- 指定棚田地域の指定

西五百川村：令和2年7月10日



## 交流イベント等をとおして、関係人口の創出、観光資源として活用

しかむら たなだちいきしんこうきょうぎかい やまがたけん おおくらむら  
**四ヶ村の棚田地域振興協議会〔山形県大蔵村〕**

### 【工夫のポイント】

- 棚田を認知してもらうため、ビュースポットの整備や案内看板の設置など景観整備を行うことで、写真撮影等の訪問者が増加。
- 来訪者の増加により、きれいな田んぼを見てもらおうと、地元農家の意識が変化。
- 棚田の写真コンテスト、田植えや稲刈り体験、収穫祭、ほたる火コンサートなど、多数の交流活動を行い、観光客を誘客。
- 棚田米生産販売組合を組織し、仙台圏を中心に販売を行い棚田米のブランド化を促進。



棚田の景観



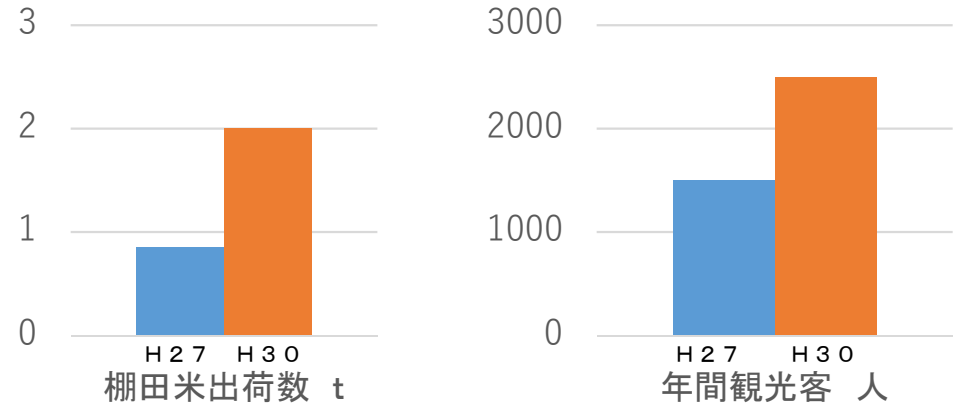
案内看板

### 【活動組織の概要】

- 設立：令和元年
- 構成員：20名
- 取組面積：136ha
- 活動内容：棚田保全活動・交流活動に係る各種事業の提案等、棚田米のブランド化
- 取組のきっかけ：棚田の保全の及び地域振興を図るため、既存の四ヶ村棚田開発協議会、棚田米生産販売組合等を主体とした組織で活動開始。

### 【取組と成果】

- 平成27年度に棚田米生産販売組合を組織し、棚田米の出荷数量が増加。
- 棚田のほたる火コンサート等を通じて地域への訪問者を誘客したことから、年間観光客数が増加。



### 【取組地域の概要】

- 山形県最上郡大蔵村
- 主要作物（農業産出額）
  - 米（6.9億円）
  - 野菜（6.2億円）
  - 乳用牛（1.2億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

- 指定棚田地域の指定  
大蔵村：令和2年4月9日



令和元年度  
東北食料・農業・農村を巡る情勢

発行 東北農政局  
編集 企画調整室

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町三丁目3番地1号（第一合同庁舎）

TEL 局代表 022-263-1111（内線 4535）

URL <http://www.maff.go.jp/tohoku/>